

令和6年度第3回幕別町部活動地域移行検討委員会 開催結果

1 開催日時

令和7年2月5日（水）19時00分から20時15分まで

2 開催場所

札内コミュニティプラザ 会議室1・2

3 出席者

【委員】

久保委員、横山委員、小田委員、稗田委員、高道委員、小松委員、沖田委員、西山委員（全8名） ※欠席2名：加藤委員、坂口委員

【教育委員会】

白坂教育部長、酒井学校教育課長、石田生涯学習課長、甲谷学校教育係長、松田社会教育係長、吉田社会体育係長、喜多学校教育推進員、小林

4 議題

(1) 地域移行に関する情報提供（資料に基づき説明）

【質疑・意見】 ○：委員、●：教育委員会

- 補足説明になるが、北見市の取組例に関して、特徴としては、非常に早く取組を進めていた点にある、当時は学校の教職員を中心に進めて、完全に地域に移行するという手段を選んでいたところである。私も当初、アドバイザーとして参加し、私の他に数名のアドバイザーが参画していて、様々な意見等を踏まえて、方針転換しており、単なる地域移行ではだめであるということを進めていく中で結論付けている。24ページで記載されている「短時間エンジョイ型活動」については、教職員の勤務時間内で行う活動として残っているものであり、それが北見市のモデルの大きな特徴とも言える。教職員の総意なのかどうかは分からないが、昔で言う小学校のクラブ活動や特別活動のように位置付けて取組を実施しているようである。

(3) 熟議「幕別町における部活動地域移行の将来像」

出席者を2つのグループに分けて、「中学生が活動（参加）してみたい、してみたくなるスポーツ、文化芸術活動」をテーマにして、グループで熟議を行った。

【グループ①】

活動は継続的・持続的なものにしないとイケなく、幕別町はオリンピックの町ということもあり、幕別町の良さを生かすような移行になればいいなと考えている。

子ども目線で、勝負にこだわりたい子が思いっきり行える場、興味関心がある子が思いっきり行える場が必要で、家庭のサポート、交通・移動手段や大会・遠征の負担の支援があれば、より活動しやすくなる。活動を支えるのは指導者であるため、指導者もしっかり

と育てていかなければならない部活動の指導をしたくて教職員になっている方も多くいると思うが、まずは切り口として、町職員で柔軟に指導していけるような体制を作り、幕別町役場に就職したら、何かの指導がしたいといった流れになったら、良い指導者も集まるのではないかという話になったところである。

【グループ②】

活動する場所は身近な場所で、子どもたちがすぐに活動できるような、自己完結できる（保護者の送迎を求めないような）場所の確保が必要である。指導者の部分に関しては、実力がある指導者が来て欲しい、優しい指導者が良い、個々のレベルに応じた指導ができる指導者が良いといった意見が多くあった。活動の中では、面白い活動だったり、友情を深めたり、場合によっては、成果を求められることなく、気楽に楽しめるというものではないかと思う。一方で、活動の質として、強いチーム、成果を求めるもの、専門性を高めるということも魅力であると意見もあったところである。

あとは、活動の幅ということで、様々な体験ができること、同じ競技で他の団体との交流ができるような活動があれば良いという話があった。